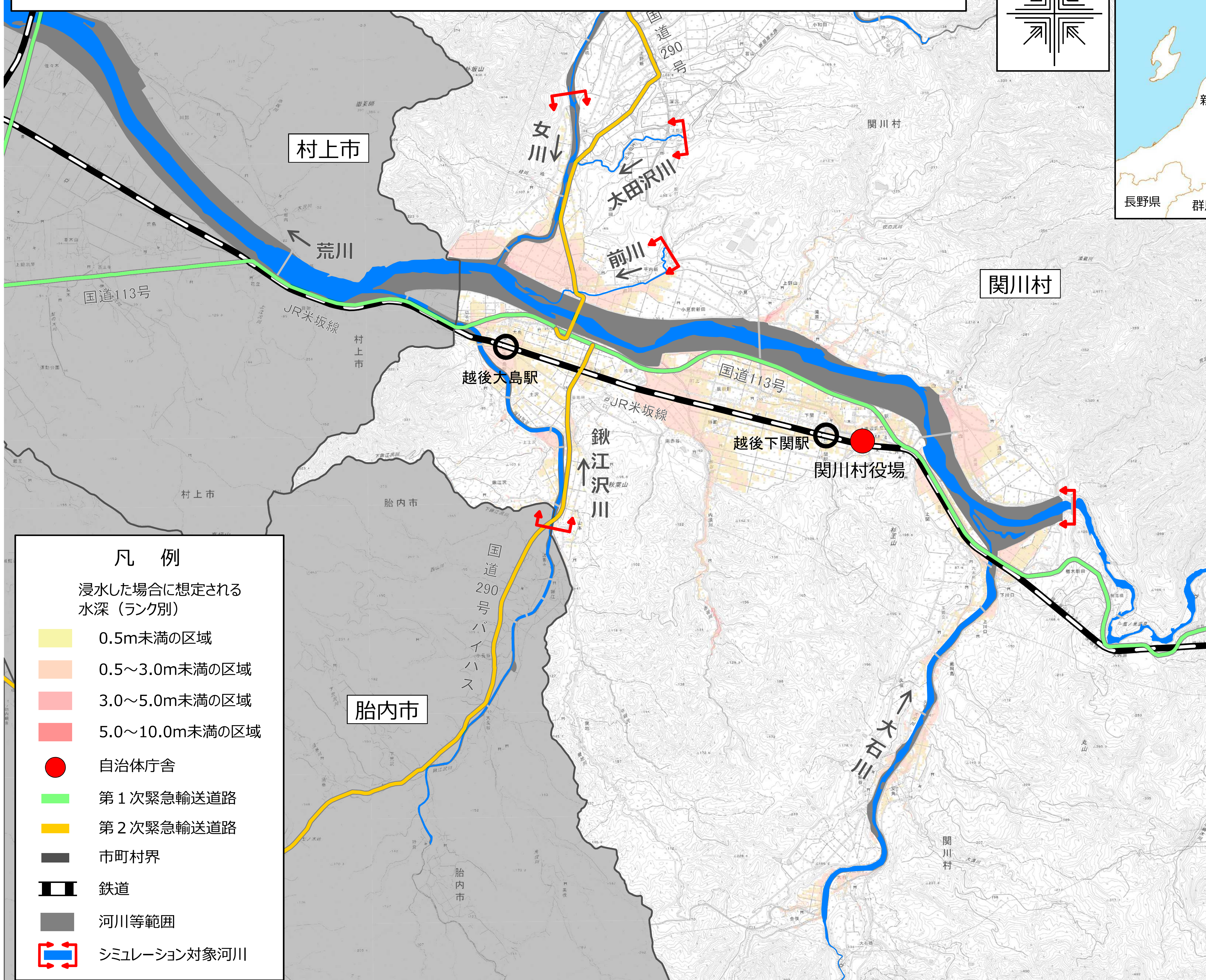
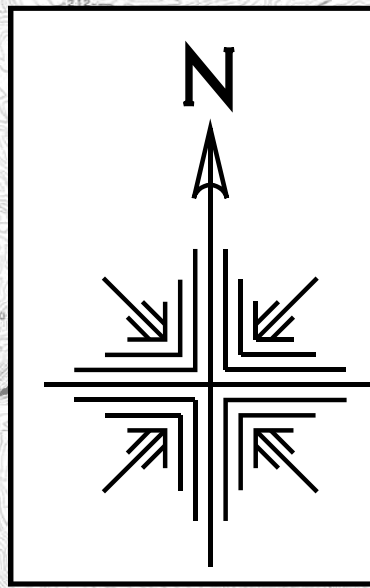


# 荒川水系 内外水統合型の浸水想定図 (1/30規模降雨) 【現況河道】関川村



### 凡例

浸水した場合に想定される水深(ランク別)

- 0.5m未満の区域
- 0.5~3.0m未満の区域
- 3.0~5.0m未満の区域
- 5.0~10.0m未満の区域
- 自治体庁舎
- 第1次緊急輸送道路
- 第2次緊急輸送道路
- 市町村界
- 鉄道
- 河川等範囲
- シミュレーション対象河川

1. 説明文
  - (1) この浸水想定図は、流域治水の推進を目的として、国管理河川に加えて新潟県管理河川と雨水出水による氾濫についても考慮したものであり、年超過確率1/30(毎年、1年間にその規模を超える降雨が発生する確率が1/30(3%))の降雨により浸水した場合に想定される、浸水範囲と浸水深を表示した図面です。
  - (2) この浸水想定図は、[現況]の荒川等の河道や洪水調節施設、下水道及び各種排水路の整備状況等を勘案して、年超過確率1/30(毎年、1年間にその規模を超える降雨が発生する確率が1/30(3%))の降雨に伴う洪水による荒川等の氾濫及び雨水出水による氾濫が発生した場合の浸水の状況をシミュレーションにより算出したものです。
  - (3) シミュレーションの前提となる降雨や河道条件、地形条件等によって結果は異なり、あくまで一つのシミュレーション結果ですので、この浸水想定域内に含まれていない地区においても浸水が発生する場合や想定される水深が実際の浸水深と異なる場合があります。
  - (4) この浸水想定図は、前提となる降雨の確率規模や時空間分布、計算手法等の違いにより、洪水浸水想定区域図や内水浸水想定区域図、河川整備計画の策定時又は各種事業計画立案時に事業効果を説明するために用いたシミュレーション結果等とは異なる場合があります。

2. 基本事項等
  - (1) 公表年月日：令和8年3月30日
  - (2) 作成主体及び対象となる流域 国土交通省北陸地方整備局  
・羽越河川国道事務所：荒川水系荒川流域(関川村)
  - (3) 実施区間  
【羽越河川国道事務所】  
・荒川 左岸：新潟県岩船郡関川村大字下川口5 5 7番の1地先から海まで  
右岸：新潟県岩船郡関川村大字湯沢字湯沢山国有林4 0 2林班地先から海まで  
【新潟県】  
・大石川 左岸：新潟県岩船郡関川村大字大石5 4 0地先大石ダムから荒川への合流点まで  
右岸：新潟県岩船郡関川村大字大石4 4 0地先大石ダムから荒川への合流点まで  
・女川 左岸：新潟県岩船郡関川村大字朴坂4 6 0番の4地先から荒川への合流点まで  
右岸：新潟県岩船郡関川村大字桂8 2 5番の5地先から荒川への合流点まで  
・鍬江沢川 左岸：新潟県岩船郡関川村大字鍬江沢9 3 5番地先から荒川への合流点まで  
右岸：新潟県岩船郡関川村大字山本1 4 6 7番地先から荒川への合流点まで  
・太田沢川 左岸：新潟県岩船郡関川村大字高田1 7 8 8番地先から女川への合流点まで  
右岸：新潟県岩船郡関川村大字若山5 5 7番の1地先から女川への合流点まで  
・前川 左岸：新潟県岩船郡関川村大字平内新1 6番の3地先から荒川への合流点まで  
右岸：新潟県岩船郡関川村大字高田1 0 7 7番の6 3地先から荒川への合流点まで

- (4) 算出の前提となる降雨
 

年超過確率1/30の流域毎の48時間の総雨量	1/30
荒川	273mm
大石川	314mm
女川	330mm
鍬江沢川	336mm
太田沢川	330mm
前川	336mm

- (5) 河道条件  
・荒川、女川、太田沢川、前川：[現況] ・大石川：R1測量 ・鍬江沢川：H21基礎地図情報5m地盤高データから作成
- (6) 下水道等条件  
・施設条件：[現況]  
このシミュレーションは、下水道等の排水施設は一定の排水能力があるものとみなし、地形の高低差などから浸水が想定される範囲やその深さを求めたものであり、時間経過に伴う下水道等の排水施設への流入や溢水を考慮した詳細なシミュレーション結果とは、想定される水深・浸水継続時間が異なる場合があります。  
下水道等のシミュレーションにおいては、排水先の水位を、対象降雨に応じた水位に設定しています。
- (7) 関係市町村 関川村
- (8) その他計算条件等(計算メッシュ、地盤高メッシュ等について必要に応じて記述)  
ア) 氾濫計算は、対象区域を25mメッシュ(計算メッシュという)に分割して、これを1単位として計算しています。  
イ) 計算メッシュの地盤高は、航空レーザー測量による数値標高モデル等から求めた平均地盤高を使用しています。このため、微地形による影響があらわされていない場合があります。  
ウ) 連続して大規模に盛土された道路や中小河川の堤防等については、氾濫域を左右することから計算メッシュにおいて平均地盤高とは別に扱い、その影響を考慮したシミュレーションを行っています。  
エ) 下水道等の氾濫解析については、氾濫域のメッシュ格子に直接降雨(降雨量に流出率を乗じた値)を与える手法としており、浸水範囲が過大となるおそれがあるため、10cm未満のメッシュ格子は「浸水なし」と評価しています。

※この多段階の浸水想定図は水防法に基づく図ではありません。

国土交通省北陸地方整備局羽越河川国道事務所

